

外部評価	項目	自己評価	外部評価		
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人に寄り添いながら共感し、その人らしい生活ができるように継続し、笑顔で過ごせることを理念とし、サービスを提供しています。	事業所独自の理念を各ユニック毎に作成され、分かり易い場所に掲示しています。管理者は職員との意思疎通が良く、理念のとおり、すべての利用者が人に寄り添いながら共感し、その人らしい生活ができるよう支援し、笑顔で過ごせるよう、理念の実践に繋がっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、地域活動に参加しています。民生委員や老人会の皆様にも行事に参加して頂いています。(現在、コロナ禍にて自粛中です)	コロナ禍以前は、事業所の夏祭りや餅つき大会等に民生委員や老人会の方々、近隣住民を招くなど地域交流を積極的に行っていましたが、現在は自粛しています。しかし、職員は地域との交流が途切れないよう情報共有に努めています。グループホームの存在も地域に定着し、通りすがりの人や地域の方から認知症の相談で声をかけられることもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員などの地域の皆様と行事を実施し、交流を持つことでお互いに理解し、支援して頂けるよう努力しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事等の報告や今後の予定や検討事項・反省等、意見交換を行っています。(コロナ禍にて電話会議を実施しています)	地域の支所長や民生委員等の参加で2ヶ月に1回、運営推進会議を開催していましたが、現在はコロナ禍のため、電話会議を行っています。毎回行事等の報告や今後の予定や検討事項を話し合っています。また、意見や要望等を聞けるように事前に収集しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	定期的に市町村担当職員と連絡をとり、協力を働きかけています。また、月1回広報誌を配布しています。	市の担当者とは、常に連携を図り相談できる関係を作っています。毎月発行の広報誌は市にも届け、事業所の理解に繋がっています。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は鍵をかけず自由に出入りできます。安全面に配慮し、ドアが開くとチャイムが鳴るため、職員はすぐに気が付くことができます。</p>	<p>身体拘束のないケアの徹底化を図るため、研修や職員会議で話し合いを行っています。支援の実践については、管理者や職員同士で注意しあい、拘束のないケアを目指していません。日中は、鍵をかけず自由に出入りでき、リスクについても十分説明し、職員の見守りによって利用者の安全は確保されています。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的に勉強会を開き、理解や積極的な学びに取り組んでいます。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>以前後見人制度を利用されていた利用者の事例をもとに、その時に得た知識を共有して支援できるよう取り組みます。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書において、契約時(変更時)には丁寧に説明し、同意を得ています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会・電話連絡(LINEやメール等)時に、ご家族から希望など意向を伺い、反映しています。話しやすい雰囲気作りを心がけています。</p>	<p>利用者には日常ケアの中で意見や要望を聞き、家族にはコロナ禍での対面の面会が難しく、ガラス越しや電話、LINE、メールで希望を聞いています。毎月、行事の様子や動画を送るなど、家族との関係保持は良好です。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月に一度、定例会議・企画会議を実施して、意見交換をしています。遠慮のない意見交換ができるような雰囲気づくりを心がけています。</p>	<p>スタッフミーティングや月に一度の定例会議等を実施し、意見を聞く機会があり、又日々のケアで現場での気づきや提案を、管理者に伝える環境が整っています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>自己評価等を用い、個々の職員と面談をする時間を設けています。前向きな気持ちで話し合えるように心がけています。</p>		

13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修に参加し、伝達研修を開いています。研修以外でも課題を考え、随時勉強会を開いています。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>ネットワーク作りや、勉強会参加以外にも毎月各事業所に出向き、情報交換にも力を入れています。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前面接では、それまでの生活歴や状態を把握するよう努めています。必ず本人様にあつて話をする機会を設けています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>これまでの経緯をじっくりと聞き、要望に応じた対応・ケアができるようよく話し合うようにしています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者様・ご家族様より聞き取り、状況確認をすることで必要としている支援を見極め対応しています。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>支援する側、される側という意識を持たず、共に生活できるよう支援しています。また、職員が利用者様から助言を受けたり励まされることもあります。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族会を実施し、利用者様の日々の暮らしを共有するよう努めています。家族様と同じ思いで支援していくこと常に考えています。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者様の友人・知人が気軽に立ち寄れるように働きかけています。</p>	<p>地域に密着した事業所として気軽に立ち寄れる環境づくりを心掛けています。コロナ禍の中でも利用者の馴染みの場所にドライブで出かけるなど、気分転換を図っています。</p>	

21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係が良好になるように職員が架け橋になるように努力しています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も面会は継続し、家族様の要望・相談にも対応しています。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分らしく生活が送れるように利用者様、ご家族様より希望や、意向の聞き取りを随時行っています。	利用者や家族から希望や意向を聴き、フェースシートに整理、「自分らしく生活が送れる」を常日頃から把握しています。困難な場合は、ケアを通じて表情や仕草など推したり、家族と連携し情報を得るようにしています。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前や利用後にも本人様や、家族様、関係者様とどのような生活を送られていたか、聞き取りを行い把握に努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを理解し、日々の生活の中でもできること、困難なことに気付けるよう努めています。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の生活の関わりの中で、思いをくみとり、反映するようにしています。定期的なモニタリングに努めています。	6ヶ月毎に見直し計画更新しています。状況、状態に変化があれば、その都度利用者や家族、職員、医師の意見を参考に、現状にあった意見を反映して、新しい介護計画を作成しています。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、本人の言葉、エピソードも残すように心がけているすべての職員が把握できるように、申し送り等で伝達、確認しています。	

28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>状況や要望に応じて個別に、柔軟な支援ができるように心がけています。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の施設を利用したり、民生委員などの地域の皆様に協力を呼びかけています。</p>		
30	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>希望するかかりつけ医となっています。往診以外でも、相談しながら、適切な支援につなげられるよう心がけています。</p>	<p>基本的に提携医が2週間に一度往診して下っていますが、以前からのかかりつけ医での対応も可能ですし、専門科への通院は無償で送迎をしており、柔軟に対応されています。</p>	
31	<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>提携医療機関と連携が取れる体制が確保されています。24時間相談でき、指示、助言も受けられます。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には本人の状況や支援方法について説明するために職員が同行しています。医師、看護師、家族様と情報交換をしながら、速やかに退院支援に結びつけています。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期を含め、早い段階で、対応について担当医を交え説明話し合いを行っています。状況に変化があれば随時話し合い、適切な支援につなげています。</p>	<p>開設から現在まで2回看取り実績があり、主治医の協力の下、看取りでの対応が可能になっています。ただ、入浴の際、臥床式浴槽がないため、寝たきり状態になれば、基本的には施設への紹介をされています。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急隊員による指導を定期的に受けています。夜勤時・緊急時の対応、連絡方法についても徹底を図っています。</p>		
35	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防士や、救急隊員による指導を定期的に受けています。スプリンクラー・消防施設も定期的に点検しています</p>	<p>年2回夜間帯を想定した訓練をされています。地元の消防団の協力を仰ぐため、交流会を設けたりと努力されています。また、地域のハザードマップを元に、避難経路を確認されています。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会の他に、日々の業務の中でも職員の意識を見直し、向上を目指しています。特に言葉かけに気を付け、プライバシーを損ねないよう心がけています。	プライバシー保護に十分注意しており、毎朝のミーティングの際に利用者の名前ではなく部屋番号で言ったり、トイレ誘導の際は「お部屋にいきましょうか」と羞恥心を損なわないように配慮したりと日々努力しています。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の心情に合わせた声掛けを行ったり、表情などの様子から読み取るように心がけています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日により、その人のペースに合わせて支援できるようにしています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃り・顔剃り・爪切り・毛染め等に関しては必要に応じて対応しています。服装などは好み、希望を取り入れ支援しています。		
40	15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳・片付け等、共に行っています。メニューも共に考えて作成しています。中庭で育てた野菜なども調理しています。	こちらでは外注ではなく、レシピ本を参考に利用者とともに三食の献立を考えています。また、敷地内で育てた野菜を献立に入れたり、配膳や下膳・テーブル拭き等利用者にはできるだけ参加して頂いています。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記入することで、残食量を確認して、職員が情報を共有しています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいを促し、就寝前の歯磨きを実施しています。義歯は毎日洗浄剤を使い清潔に保っています。		



43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要な方に関しては、パット・リハビリパンツを使用して頂いています。排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしています。	常時おむつ着用が必要な利用者に対しても日中はリハビリパンツに変更し、トイレ誘導しています。現在夜間帯のおむつ着用者は1名のみで、日々努力しているのがうかがえます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に気をつけたり、水分量をチェックしています。ラジオ体操や散歩など、体を動かすことにも取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日いつでもできるようにしています。声掛け等の工夫をしてその人に合わせた入浴支援を試みています。	こちらでは毎日の入浴や時間帯を決めずに入浴したい利用者、同性援助を希望する利用者にも柔軟に対応できるようになっており、余裕のあるスタッフ配置になっております。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えていくように努めています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人ファイルに保管して、職員が内容を共有しています。服薬は必ず本人に手渡し確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野、できることなどを見出し、一日が楽しく過ごせるように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や散歩は日々実施しています。外食やドライブは積極的に実施しています。	以前は家族も交え、年4回行事をされていました。特に年1回の日帰りバス旅行は非常に好評でしたが、現在は社会情勢を鑑み、上記行事はできていませんが、敷地内の中庭での行事や農道での散歩は毎日のようにされており、毎月のお便りにも行事の充実ぶりが良く分かります。	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>財布には一定額を入れ、個人で管理して頂いています。買い物に出かけた時など本人が支払いできるように支援しています。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>いつでも電話をかけられるようにしています。手紙・年賀状のやり取りも行っています。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間には、コタツを置き、自由に使えるスペースになっています。玄関には四季折々の草花を生け、楽しんでます。</p>	<p>残念ながら直接は確認できていませんが、パンフレットを拝見するに、景観が良く、建物や立地を気に入り、入居される利用者も多いとの事です。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関・中庭などにはベンチがあり、談話をしたり、共にくつろぐことができます</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで使っていた家具や日用品をお持ち頂いています。</p>	<p>居室内は洗面台・トイレ・エアコンが常設しており、ベッドは持ち込み可能になっております。また、カーテンが常設しておらず、これは極力利用者のお部屋を自分の部屋だと認識してもらうため、家の物を持ち込んでもらう意向が事業所にはあります。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自室のドアは各部屋ごとに色が違い、分かりやすく工夫されています。自室前には写真を飾り表札もかけています。</p>		



V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない